

平成 24 年第 7 回

# 札幌市教育委員会会議録

※ 非公開に係る議案を除く

## 平成24年第7回教育委員会会議

1 日 時 平成24年4月13日（金） 13時30分～14時18分

2 場 所 S T V北2条ビル4階 教育委員会会議室

3 出席者

|          |         |
|----------|---------|
| 委員長      | 山 中 善 夫 |
| 委員       | 臼 井 博   |
| 委員       | 設 楽 雅 代 |
| 委員       | 西 村 真 理 |
| 委員       | 池 田 光 司 |
| 委員       | 北 原 敬 文 |
| 教育次長     | 町 田 隆 敏 |
| 生涯学習部長   | 梅 津 康 弘 |
| 企画調整担当課長 | 前 田 明 寿 |
| 学校教育部長   | 金 山 正 彦 |
| 教職員課長    | 池 戸 和 俊 |
| 総務課長     | 長谷川 雅 英 |
| 庶務係長     | 宮 地 宏 明 |
| 書記       | 藤 間 雅 尚 |

4 傍聴者 4名

5 議 題

議案第1号 平成24年度教育委員会事務の点検・評価について

議案第2号 札幌市立学校職員健康審査会委員の任命について

**【開 会】**

○山中委員長 それでは、平成24年第7回教育委員会会議を開催いたします。

会議録の署名は、臼井委員と西村委員にお願いします。

本日の議案第2号につきましては、委員の任命にかかわる事項でございますので、教育委員会会議規則第14条第2号の規定によって公開しないこととしたいと思いますが、いかがでしょうか。

(「異議なし」と発言する者あり)

○山中委員長 それでは、本日の議案第2号につきましては、公開しないことといたします。

## 【議 事】

### ◎議案第1号 平成24年度教育委員会事務の点検・評価について

○山中委員長 では、まず、議案第1号について事務局から説明をお願いします。

○生涯学習部長 それでは、議案第1号 平成24年度教育委員会事務の点検・評価についてご説明いたします。

教育委員会事務の点検・評価につきましては、地方教育行政の組織及び運営に関する法律第27条の規定によりまして実施するものでございます。

法の抜粋につきましては、議案の一番最後に、参考という形でつけさせていただいております。

今回の議案では、今年度の点検・評価を実施するに当たりまして、点検・評価項目と意見を徴する学識経験者について決定いただくものでございます。

本件につきましては、本日の議案としての提出に先立ちまして、3月9日に開催いたしました教育委員会会議におきまして、事前の協議という形でご説明させていただいております。点検・評価実施についての基本的考え方、それから点検・評価項目の選定の考え方などについてご説明をし、ご意見を頂戴したところでございます。本日は、それを踏まえたものでございます。

まず、1枚めくっていただきまして、別紙1をご覧くださいと思います。

まず、別紙1の1番目の点検・評価項目でございます。

項目につきましては、さらに、次のページに、A3判縦の別紙2という資料がついております。これでご説明させていただきたいと思います。

この中で、基本となる5つの個別計画をまとめた札幌市教育振興基本計画の体系上の施策から、別紙2の中で赤枠でお示ししております4つの施策を平成24年度の点検・評価項目、事務局案として提案させていただいております。

この項目につきましては、平成23年度において重点的に取り組んだ項目でありまして、さらに、平成24年度以降も重点的に取り組みを進めていく必要のある施策でございます。

また、過去の点検・評価で対象とした頻度についても考慮いたしましたところでございます。

なお、施策ごとに協議を深めていただくために、これからのスケジュールなども勘案いたしまして、項目を絞り込んで、4つの施策にさせていただいております。

それでは、この4つの施策について、個別に選定理由につきまして、改めて説明させていただきます。

まず、一番上の施策の学ぶ力の育成【知】となっている部分でございますが、

新学習指導要領が、小学校では平成23年度に、中学校では平成24年度に全面実施され、また、昨今、市民や議会の間でも非常に関心が高まっている項目であるということから選定をいたしましたものでございます。

次に、二つ目の【読書】活動の推進につきましては、読書関連の4つ目とあわせてご説明することといたしまして、一つ飛ばしまして、その下の施策の信頼される学校の創造のうち、安全・安心関連分野を選定いたしました。安全・安心な学校づくりは、先の東日本大震災などを受けまして最重要課題となっております。また、防災教育や災害対策などに関連した取り組みの充実について、今後さらに検討していくべき課題となっております。

次に、四つ目でございますが、施策の市民の生涯にわたる読書環境づくりでございます。平成23年度は、子どもの読書活動の推進にかかわる事業や、電子図書館の実験など図書館の機能充実に向けた事業などを進めてきておまして、今年1月に策定をいたしました第2次図書館ビジョン、あるいは第3次新まちづくり計画に基づき、今後、より一層読書環境を充実させていくこととしていることから選定したものでございます。

なお、中央図書館関連施策につきましては、これまでの点検・評価の対象としたことはございませんでした。

最後に、先ほど飛ばしました、上から二つ目の項目、施策で言いますと【読書】活動の推進でございます。生涯にわたる学びの基盤を培う上で重要な学習活動のテーマでありまして、施策の学ぶ力の育成【知】とも関連が深いことなどから、市民の生涯にわたる読書環境づくりとあわせて点検・評価していただくことが適当であると考えております。

以上が、項目の選定の主な理由でございます。

なお、3月9日の事前協議におきましては、点検・評価に当たっての視点といたしまして、具体的には自立という観点のご提案をいただいております。また、そのほか、施策とその下に来る事業レベルのものにつきまして、完全固定ということではなくて、議論の状況に応じて他の施策項目に出てくるものとあわせて協議することなどを意識しながら進めるというようなご意見も頂戴したところでございます。これからの点検・評価に当たりましては、そういったことを念頭に置きながら進めてまいりたいというふうに考えております。

それでは、最初の別紙1に戻って、2番目の意見を徴する学識経験者についてご説明をいたします。

学識経験者につきましては、昨年度と同様に2名といたしまして、昨年度にお願いいたしました梶井教授と大久保教授に依頼するというものでございます。

なお、梶井教授は、本年4月より、北海道武蔵女子短期大学から札幌大谷大学の教授となられております。また、大久保教授は、北海道教育大学から同校

の教職大学院の院長となられておられます。

以上、点検・評価項目及び意見を徴する学識経験者につきまして、事務局案を説明させていただきました。

ご協議のほどを、よろしくお願いいたします。

○山中委員長 ありがとうございます。

それでは、点検・評価項目並びに意見聴取の学識経験者について、ただいまの事務局説明を踏まえて、ご質問、あるいはご意見などがございましたらお願いしたいと思います。

○池田委員 信頼される学校の創造のところが安全・安心については、主に施設的なというか、ハードの面を重視する考え方なのでしょうか。そこをもう少しお聞きしたいなと思ったのです。

○生涯学習部長 そこら辺につきましては、先ほどもご説明を申し上げましたように、前回の教育委員会でもいろいろご意見があったところでございまして、必ずしもハードにこだわらずに、例えば、先日のご議論の中では、いじめの問題なども話題としてあったかと思えますけれども、その議論の状況に応じて、そういったものも含めて議論をすることが必要だというご判断になれば、そういったところを含めてご協議をいただきたいと思っていますところ です。

○北原委員 補足させていただきます。子どもの安全を確保する取り組みは、まさに、ハード・ソフト両面にわたるものだというふうに幅広くとらえられるのだと思いますので、そういった観点で議論をいただけたらと思っています。

○山中委員長 よろしいですか。

ほかにいかがでしょうか。

○臼井委員 【読書】活動の推進と図書館の関係でお伺いしたいのですが、上【読書】活動の推進は学校教育のところだと思うのですが、実際に学校を見ていましたら、地区の区民センターから図書を借り入れるということでの連携が実際にあると思います。また、中央図書館とか地区センターの中で、子どもたちが下校してから、学校で学んだことと関連することをそこで調べるといような、いわゆる学校教育のものと地区の図書館とのリンクについては、この中でどこに位置づけているのでしょうか。

○生涯学習部長 これは、まさに、二つ目の【読書】活動の推進と、最後の図書館の部分との両者をあわせて評価をしていただくことになろうかと思えます。その辺で、学校教育の部分と図書館、生涯教育の部分の接点、あるいは子どもたちの読書環境を拡大する上で連携をどうしたらいいかといった部分につきましては、両者の中でいろいろご意見を頂戴することになるのではないかと考えております。

○山中委員長 ほかにいかがでしょうか。

○臼井委員 今度は、図書館のことについて、もう一点、お伺いしたいのですが、最近はお若い子どもたちとお母さんが、読書を好きになるという狭い意味ではなくて、子育ての一環として読書活動あるいは絵本に親しむということがあったのですが、これは、この中ではどういうところで位置づけているのですか。

○生涯学習部長 いわゆる読書をするきっかけづくりになるかと思うのですが、図書館デビューということや、さっぽろっこ絵本作りなどということも図書館で行っておりますので、やはり、メインとしては、市民の生涯にわたる読書環境づくりの中で評価していただくことになるのかなと考えております。

○山中委員長 ほかにいかがでしょうか。

○設楽委員 学ぶ力にしましても、それから、安心・安全でも、先ほどもご説明があったように、心身面だけでなく、ハード面の検討や、読書環境づくりと、どれをとっても、他部局との関連が非常に重要だと思うのです。その辺で、点検・評価は、そういう関係をどのように整理されているのですか。

先生方がすごく頑張ってくださいっても、お家に帰って何もできないということであると、本当に家庭の状況がしっかりしないと難しい問題があります。ですから、他部局がやっていることとの関連は、こういう点検・評価では、特に論議はされないのですか。

○生涯学習部長 教育委員会として、当然にして、連携すべき事柄につきましては、まさに教育委員会の業務の一環でございますので、そういった観点から資料等も使わせていただきますし、またご評価いただければと思えます。

○山中委員長 議論の過程で、他部局のやっていることに対して、了解すると

ということではないけれども、他部局との連携は、こういうことを考えて、こういう面で他部局ともっともっと連携してほしいという意見が出てくることも、点検・評価としては大変重要ではないかと思いますが、そういったことも含めて議論していくのですね。

○生涯学習部長 はい。

それは、今抱えている課題の一つとして、まだ連携がとれていないというような話になれば、それをさらに連携していくためにはどうしたらいいかというような、まさに平成24年度、平成25年度以降につなげていくという評価、ご議論になるのかなと思っています。

○山中委員長 教育については、どうしてもほかといろいろな関係がでてこざるを得ない、いろいろなことを考えながらやっていかざるを得ないという意味かなと思います。ぜひ、そういうところについて、それなりの注文というか、必要な議論をさせていただくという姿勢はあってもいいのではないのでしょうか。

ほかにいかがでしょうか。

○池田委員 学ぶ力の育成のところ、帰国幼児児童生徒等に対する教育の充実がありますけれども、これは、具体的には、今、対象制度は結構多いものですか、それともそれが多くなくて中途半端な施策か、それともこういうものは増えていっている傾向にあるとか、この辺をお聞きしたいのですけれども、いかがでしょうか。

○生涯学習部長 国際理解教育という中で、帰国幼児児童生徒等に対する教育支援も行っておりますので、その辺の話題になっていくと思います。

○山中委員長 だから、どのぐらいの子弟がいるのか、小中高の生徒等に占めるそういった人たちの割合なんかがどの程度いるのかを頭に置きながら、それでこのぐらいの取り組みで十分かとか、手をかけ過ぎているのではないかという評価が問題になってくるのだらうと思います。その基礎的な、帰国の生徒数はどうなっているのかというあたりをお聞きしたいという話だと思います。

○北原委員 データ的なことについては、また後ほどお話できるかと思いますがけれども、例えば、海外勤務の方が帰国されて、子どもが小さいころからずっと海外にいて、日本に戻ってきたはいいけれども、子ども本人にしてみれば、日本語は必ずしも十分ではないというような場合もあり得えます。

とりわけ、北大の周辺の子どもたちは、帰国というだけでなく、外国人の子弟等もいて、その子たちに対してどういうふうに日本語の指導をしていくか。これは、学校によってはほとんどいないという例もないわけではないですけれども、別の学校にとっては、それなりの数がいるという場合もあります。それらに対して、どう進めていくのか。

今回、大通高校を開校して、あそこにも外国の子どもなんかがどういうふうに学んでいくかということで、二、三日前の新聞にも、中国出身の日本人の先生がどういうふうに子どもたちと関わっているかという記事がありました。

そういったことを含めて、どうしていくか、割合については、また改めて見ていただきたいと思います。

○山中委員長 池田委員、それでいいですか。

○池田委員 はい。

○臼井委員 今のことに関連して、経験があるのですが、例えば、北九条小学校に行ったときに、北大の関係の方で、留学生の子どもさんが1クラスに1人ずつぐらいおられることがあります。子どもは、本当にすぐに日本語を覚えてしまって、来て2週間目ぐらいで、特に中国からの方ということもあったのですが、算数なんかはすぐわかってしまうということで、基本的に、コミュニケーションはうまくいきます。

ところが、外国から来る方で難しいことは、親御さんに伝えるというところでは、親御さんは、子どものように早く学習できない。しかし、当然、保護者に十分伝えなければいけない。そういう意味で、保護者とのコミュニケーションが難しい話なのです。前に、もみじ台には中国からおいでになった方もいて、いわば保護者との対応で、スタッフということで、もっと何かできないものかということをお伺いしたことがありました。

○山中委員長 そういう意味では、「帰国幼児児童生徒等に対する」の「等」は、保護者なども含めて考えて点検・評価していく必要があるということになるのでしょうか。

○北原委員 議論の中で必要があれば、その辺も含めて対応していく必要があると思います。

実際に、子どもたちをどう指導するかということで、家庭と連絡をとろうと思ったときに、保護者とコミュニケーションがとれなくて大変困ったという事

例もあります。

○山中委員長 ほかにいかがでしょうか。

(「なし」と発言する者あり)

○山中委員長 特になければ、この4項目を点検・評価の対象としながら、今、いろいろでました事柄などを、細かいこともございますので、こういったことも踏まえながら、今後、議論をしていくことにさせていただくことでよろしゅうございますね。

○池田委員 もう一つ、理解できないところがあるのですが、過去2、3年で対象になっている項目を出してもらいたいのです。

○山中委員長 それは、今日、この項目を決定するに当たって、これだけでは資料が足りないという意味ですか。

○池田委員 いえ、そういう意味ではないです。

○山中委員長 これを決定はするけれども、今後、議論をしていく中で、過去にどういうことについて点検項目としたかということ参考をさせていただきたいということですか。

○池田委員 はい。

○山中委員長 それは、関連することもあるでしょうから、参考させていただくことでお願いしたいと思います。

それでは、点検項目については、この4項目としまして、それから、意見を聴取する学識経験者の関係で、何かご質問、ご意見は特にございますか。

これは、昨年度もお願いした方をお願いするという提案ですが、よろしゅうございますか。

(「異議なし」と発言する者あり)

○山中委員長 それでは、第1号議案につきましては、提案どおり決定することといたします。よろしくお願ひいたします。

○生涯学習部長 ありがとうございます。

参考までに、先ほどの別紙1の下半分にスケジュールをつけさせていただいております。

次回は、5月18日金曜日の教育委員会会議定例会終了後に、点検・評価項目の1回目の協議を予定させていただいております。

なお、関係資料につきましては、事前に送付させていただきますので、よろしくをお願いいたします。

○山中委員長 先ほど要望があった過去の点検項目なども事前をお願いします。

あとのスケジュールは、今は説明しなくてよろしいですか。

○生涯学習部長 とりあえずは、5月18日のスケジュールを押さえていただいて、あとは、ここに載っているスケジュールで予定をさせていただいて、進めたいなというふうに思っておりますので、よろしくをお願いいたします。

○山中委員長 5月18日は、調整して、決定しましたね。

○事務局 5月25日、6月の方は、私ども事務局の方からご照会させていただきたいと思います。

○山中委員長 それでは、続いて、議案第2号ですが、傍聴者の方は退席されましたね。

**以下 非公開**